

# 台湾島の鳥類について

宮 本 忠 之

私は昭和42年3月26日より4月7日までの13日間、中華民国台湾島に鳥類の採集旅行をする機会を得、主に台湾の中部・西部・南部の各地を歩いて回った。短い期間ではあったが、その間に得た台湾の鳥類事情および採集することを得た鳥類などについて報告したい。なお、同旅行にあたって、現地において種々お世話になった U. S. A. NAMRU (Naval Medical Research Unit) および省立博物館に対して篤くお礼を申し上げます。

旅行は NAMRU 提供の自動車で行ったが、採集の主な場所は、霧社・墾丁・阿里山であった。台湾は動物分布の上からは東洋区に入るが、同じ東洋区に入っている奄美大島(昭和41年春採集旅行)については鳥類の状態からは旧北区に入る日本列島のものと類似点が多いように思われたが、台湾島は昭和36年に旅行したジャワ島などのものと非常に類似点が多いという印象を受けた。

台北から台中・埔里・台南・恒春・がらん鼻までは観光のメインルートになっており、道路の状態は極めてよく、日本のドライバーがうらやましがらうようなハイウェイである。市街地から離れると、すぐ田園がひらけ、背の高い並木が両側から道路をおおっており、25°C~30°Cの気温をよそに快適なドライブ、窓から入る風が心持よい。樹々の梢にはベタコといわれているシロガシラ (*Pycnonotus sinensis*) が高らかな声でさえざっており、両側の電線にはオウチュウ (*Dicrurus macrocercus*) タカサゴモズ (*Lanius schach*)、シマアカモズ (*Lanius cristatus*) などが止まっているのがよく見受けられる。特にオウチュウは日本のツバメのように人々から愛され、大事にされている。それは食性が農業上有害な昆虫を食べること、タカヤワシのような大型の鳥でも恐れず、テリトリーに入って来ると攻撃するというその勇敢さによるようである。また、ツバメも電線に見られたが、日本で多く見受けられるツバメ (*Hirundo rustica*) やコシアカツバメ (*Hirundo daurica*) はあまり見かけず、イワツバメ (*Delichon urbica*) が多かった。田の中にはホオジロハクセキレイ (*Motacilla alba*) が極めて多く、キセキレイ (*Motacilla ctnerea*) は少なかった。スズメ (*Passer montanus*) も時々15~16羽のむれをつかって電線にとまっているのが見られた。山の中に入って行くと、ヒメオウチュウ (*Dicrurus aeneus*) が多く、キンバラの類は山・里いたる所に見られた。また、カノコバト (*Streptopelia chinensis*) がバス道を

のこのこ歩いているのにも出会った。また、シロハラクイナ (*Amaurornis phoenicurus*) が自動車の音にびっくりして飛び出す姿や、日本にも放鳥されて神戸付近でそうとう数繁殖している台湾原産のテツケイ (*Bombus thoraica*) がごそごそ歩いており、やがて日本にも渡って来るサンバ (*Butastur indicus*) が高い樹の頂上から周囲を見わたしていた。車が海岸付近を通ると、タイワンインヒヨドリ (*Monticola solitarius*) が岩の上に見られ、その数も日本内地と同じような状態であった。特に墾丁の付近には熱帯植物園があり、鳥類が保護されているせいか、各種鳥類が非常に多いという印象を受けた。クロヒヨドリ (*Microscelis leucocephalus*) が、わが国のヒヨドリ (*Ixos amaurotis*) のような状態で樹々の間を飛び回っており、タイワンオナガドリ (*Dendrocitta formosae*) が奇妙な声でさえざっている。特にこのあたりではゴシキドリ (*Megalaima oorti*) が非常に多く、ココココと鳴いている。しかし、この鳥はその体色が木の葉と保護色をしており、鳴き声に注意してながめて見ても、なかなか発見することが出来なかった。台湾の南端から台南あたりまではシロガシラ (*Pycnonotus sinensis*) は見られず、クロガシラ (*Pycnonotus hainanus*) ばかりであった。とくに山脈とか隔離されるべきものは何もないのに、台南あたりを境界として北はシロガシラばかり、南はクロガシラばかりという事実は奇妙な面白い現象である。

台湾は、以前は高砂族保護の意味で蕃地に入るためには入山証が必要であったが、今年からは自動車など交通機関が入る道路に関しては入山証を必要としないよう改正された。しかし、すこし道から入るためには、やはり入山証が必要で、これは前もって台北の警察で入手する必要がある。そのためには4~5日はみておかねばならない。

阿里山に入るには、現在自動車道路はなく、阿里山鉄道を利用せねばならないが、ここの特急は極めてサービスがよく、車内では香水入りのオンボリをくれたり、窓のところに置いてあるコップに、綺麗で、あいそのよいホステスが何回もお茶を入れてくれる。以前は9時間もかかり、すすで真黒になりながら上った登山列車もディーゼル車にかえられた。私もやはり外国人であることがわかるのか、ホステスがしょっちゅう来てくれ、車窓の景色の説明や、起こるべき事柄の説明をしてくれた。3

時間半で終点に到着する。阿里山には高山性の鳥が極めて多く、朝4時半頃には観光客は皆起き出して、玉山(新高山)から出る日の出を見に行くのであるが、その頃には鳥もちょうど鳴き始め、下界より15°C以上も低い冷気がたがたふるえながら聞いた小鳥のコーラスは、今でも脳につよく印象づけられている。ここは雨が多く、特に5月頃からは雨季に入り、毎日雨が降りつづくとのことであった。

次に各地で採集(採集方法は銃器と網使用)することが出来た鳥類および各地で購入した鳥類をあげる。

(A) 採集鳥類 (31種, 48羽)

- (1) *Dendrocitta formosae formosae* Swinhoe  
タイワンオナガドリ 2 ♀ Apr. 1 墾丁
- (2) *Motacilla cinerea caspica* (S. G. Gmelin)  
キセキレイ 1 ♂ Apr. 3 阿里山
- (3) *Uroloncha striata phaethonoptila* Oberholser  
コシジロキンバラ 1 ♂, 1 ♀, ♀ ♂ 不明 1  
Mar. 29 霧社
- (4) *Passer montanus taiwanensis* Hartert  
タイワンスズメ 1 ♂, 2 ♀ Mar. 31 恒春
- (5) *Aegithaliscus concinnus concinnus* (Gould)  
ズアカエナガ 1 ♀ Apr. 4 阿里山
- (6) *Suthora gularis morrisoniana* Og-Grant  
キバネダルマエナガ 1 ♂ Apr. 4 阿里山
- (7) *Lanius cristatus lucionensis* Linnaeus  
シマアカモズ 1 ♂ Apr. 1 恒春
- (8) *Lanius schach formosae* Swinhoe  
タカサゴモズ 1 ♂ Apr. 1 白河
- (9) *Spizixos semitorques cinereicapillus* Swinhoe  
カヤノボリ 1 ♂ Mar. 29 霧社
- (10) *Regulus ignicapillus goodfellowi* Og-Grant  
ニイタカキクイタダキ 1 ♂, 1 ♀ Mar. 4 阿里山
- (11) *Pycnonotus sinensis formosae* Hartert  
シロガシラ 1 ♀, ♀ ♂ 不明 1 Apr. 2  
三義及び白河
- (12) *Pycnonotus hainanus taiwanus* Styan  
クロガシラ 1 ♂ Mar. 31 墾丁
- (13) *Microscelis leucocephalus nigerrimus* (Gould)  
クロヒヨドリ 1 ♀, ♀ ♂ 不明 1 Mar. 31 墾丁
- (14) *Pericrocotus solaris griseigularis* Gould  
ベニサンショウクイ 1 ♂, 1 ♀ Mar. 29 霧社
- (15) *Dicrurus macrocercus harterti* S. Baker  
オウチュウ 1 ♀ Mar. 31 墾丁
- (16) *Dicrurus aeneus braunianus* (Swinhoe)  
ヒメオウチュウ 1 ♀ Mar. 29 霧社
- (17) *Hypothymis azurea oberholseri* Stresemann  
クロエリヒタキ ♀ ♂ 不明 1 Mar. 29 霧社  
1 ♀ Mar. 31 墾丁
- (18) *Ianthia johnstoniae* Og-Grant  
アリサンヒタキ 1 ♂ Apr. 3 阿里山

- (19) *Prinia flaviventris sonitaus* Swinhoe  
アオハウチワドリ 1 ♂ Mar. 28 霧社  
♀ ♂ 不明 1 Mar. 28 三義
- (20) *Alcippe nipalensis morrisonia* Swinhoe  
メジロチドリ 1 ♀ Mar. 29 霧社
- (21) *Actinodura morrisoniana* Og-Grant  
シマドリ 1 ♀ Apr. 3 阿里山
- (22) *Yuhina brunneiceps* Og-Grant  
カンムリチメドリ 1 ♀ Apr. 3 阿里山
- (23) *Fulvetta vinipectus formosana* (Og-Grant)  
アリサンチメドリ 1 ♂ Mar. 4 阿里山
- (24) *Zosterops palpebrosa taiwaniana* Momiyama  
ヒメメジロ 1 ♂, 1 ♀ Mar. 29 霧社  
1 ♀ Mar. 28 三義
- (25) *Turdus chrysolaus chrysolaus* Temminck  
アカハラ 1 ♂ Apr. 1 墾丁
- (26) *Myiophonus insularis* Gould  
ルリチョウ 1 ♀ Mar. 29 霧社
- (27) *Chaimarrornis fuliginosus affinis* (Og-Grant)  
カワビタキ 1 ♂ Mar. 28 三義
- (28) *Monticola solitarius philippensis* Müller  
タイワンイソヒヨドリ 2 ♀, 1 ♂ Mar. 31 墾丁
- (29) *Tarsiger cyanurus cyanurus* (pallas)  
ルリビタキ 1 ♀ Apr. 3 阿里山
- (30) *Megalaima oorti nuchalis* Gould  
ゴンキドリ ♀ ♂ 不明 1, 1 ♂ Mar. 31 墾丁  
1 ♀ Mar. 28 霧社
- (31) *Porzana fusca erythrothorax* (Temminck & Schlegel)  
ヒクイナ 1 ♂ Apr. 5 台北

(B) 購入鳥類 (20羽)

- (1) *Pica pica* カササギ
- (2) *Urocissa caerulea* ヤمامスメ
- (3) *Oriolus ardens* ヒゴロモ
- (4) *Coracina javensis* オニサンショウクイ
- (5) *Trochalopteron canorum* ホイビイ
- (6) *Turdus niveiceps* タイワントグミ
- (7) *Dryobates kizuki* コゲラ
- (8) *Centropus bengalensis* パンケン
- (9) *Glaucidium brodiei* ヒメフクロウ
- (10) *Otus scops* コノハズク
- (11) *Otus bakkamoena* オオコノハズク
- (12) *Columba pulchricollis* タイワンジュズカケバト
- (13) *Streptopelia chinensis* カノコバト
- (14) *Chalcophaps indica* キンバト
- (15) *Amaurornis phaenicurus* シロハラクイナ
- (16) *Turnix sylvatica* ヒメミフズラ
- (17) *Arborophila crudigularis* ミヤマテッケイ
- (18) *Syrnaticus mikado* ミカドキジ
- (19) *Ixobrychus cinnamomeus* リュウキュウヨシゴイ
- (20) *Rostratula benghalensis* タマンギ